

第3回全国在宅医療・介護連携研修フォーラム（H28.9.2）

地域在宅医療・介護連携推進の取り組み

～ 県型保健所の取り組み～

A photograph of a spotted deer with two fawns in a lush green field. The deer is standing in the center, looking to the right. Two smaller fawns are positioned around it, one to the left and one to the right. The background is a dense green forest.

奈良県中和保健所

健康増進課 和家佐 日登美

奈良県

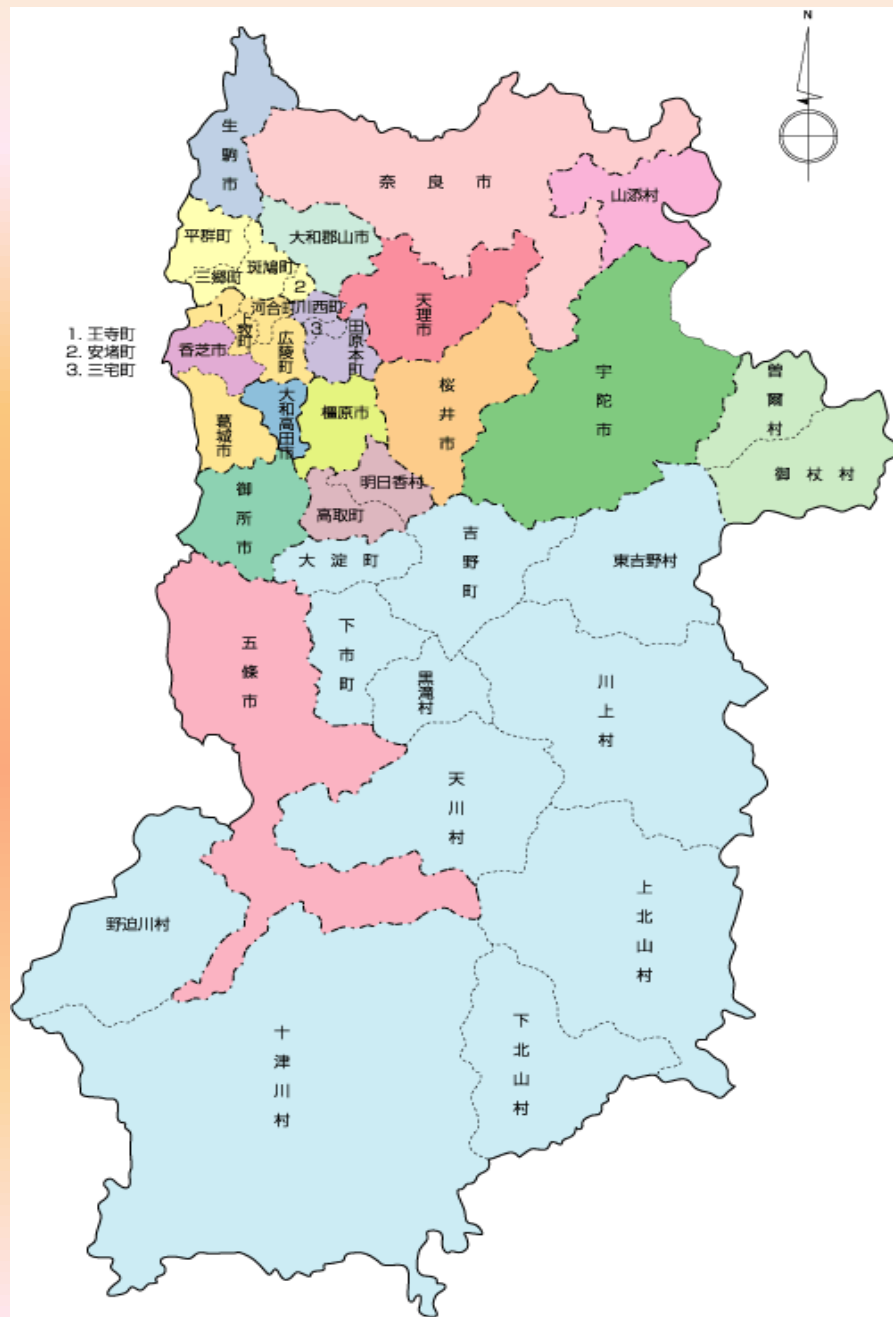
(12市15町12村)

人口 1,376,466 人
出生数 9,812 人
死亡数 13,830 人

面積 3,691.09 km²

保健所 5カ所
病院 77カ所
病床 17,015 床
診療所 1,214カ所
歯科診療所 711カ所

医師 3,132 人
歯科医師 918 人
薬剤師 2,947 人
保健師 465 人
助産師 298 人
看護師 13,440 人



奈良県の保健所

奈良県

県型保健所
(4)

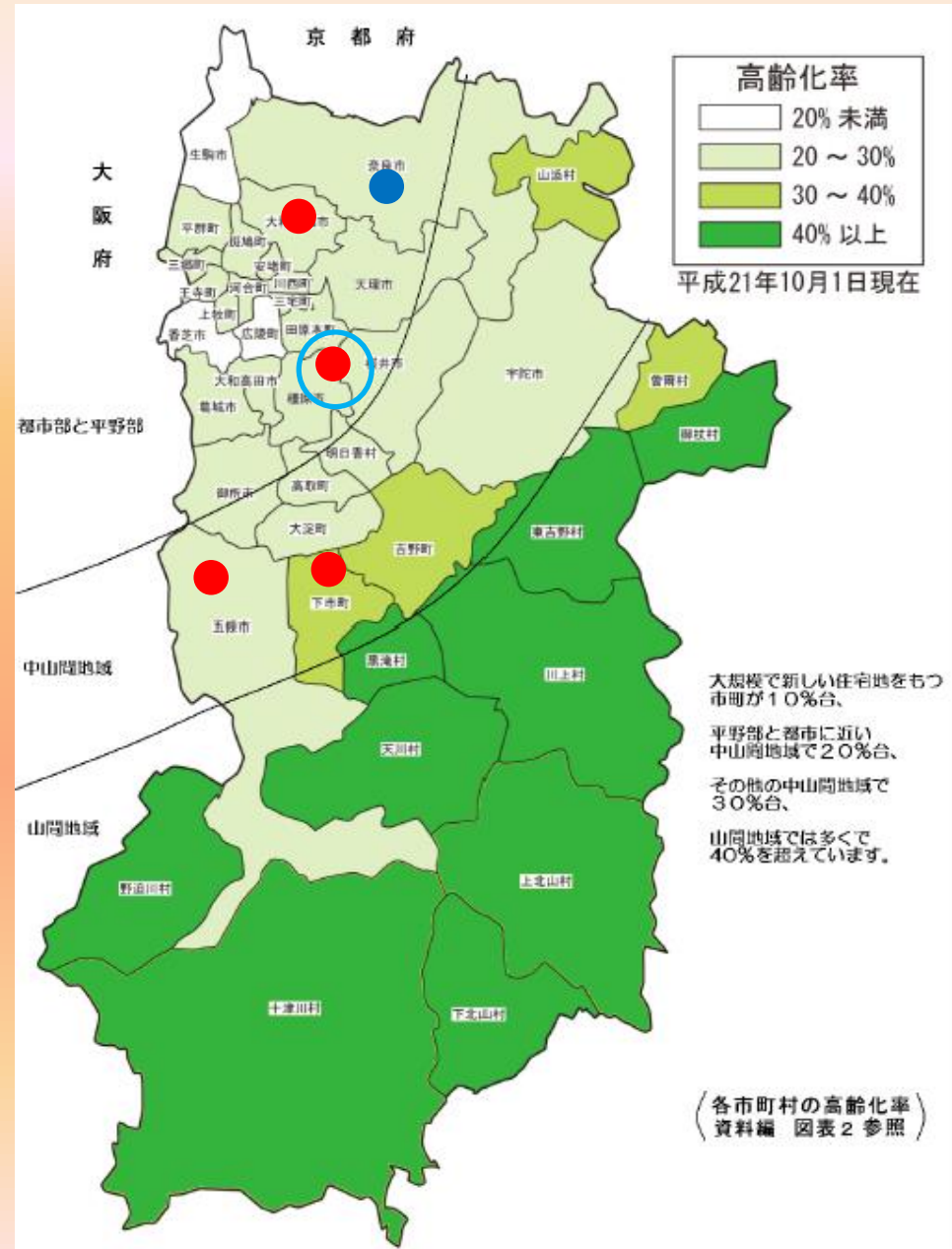
市型保健所
(奈良市)

市町村保健
センター(38)

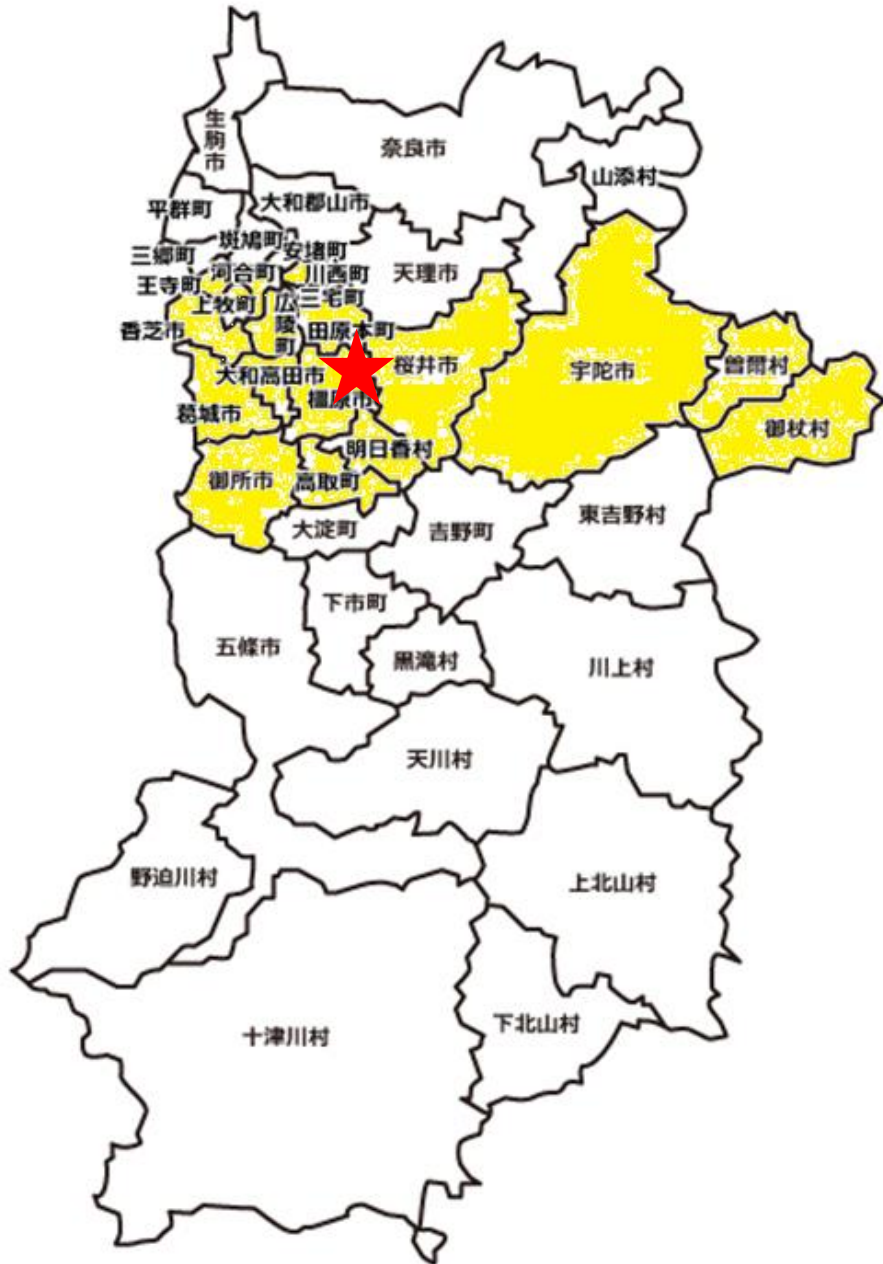
奈良市保健
センター

● 県型保健所

● 市型保健所



中和保健所(H27.2開設)管轄市町村



市町村名	人口 (H27.6.1 推計値)	市町村名	人口 (H27.6.1 推計値)
橿原市	124,774	香芝市	77,641
桜井市	58,418	大和高田市	65,066
宇陀市	31,149	葛城市	36,460
田原本町	31,614	御所市	27,520
川西町	8,642	広陵町	33,918
高取町	7,147	上牧町	22,653
三宅町	7,024	王寺町	22,856
明日香村	5,461	河合町	17,807
御杖村	1,792		
曾爾村	1,603	<総人口>	581,545
(旧桜井保健所管轄)		(旧葛城保健所管轄)	

地域包括ケアにおける
在宅医療連携システムの構築を目指した
旧桜井保健所と宇陀市の取り組み



県民が病気や障害を持ちながらも
安心して在宅療養ができるまちづくり

地域の保健と予防を発展させる保健活動

発展

システムづくり

仲間・
チームづくり

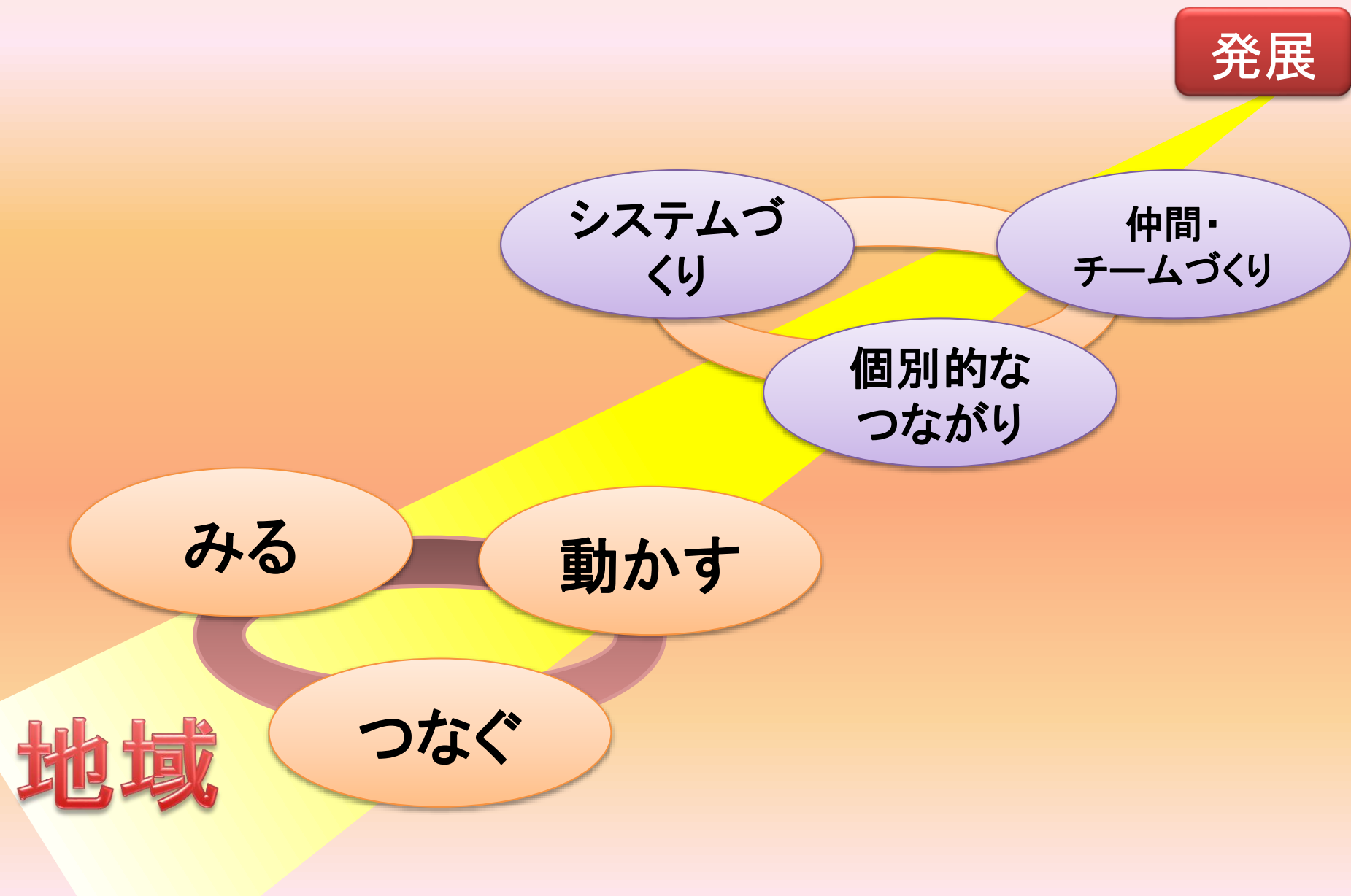
個別的な
つながり

みる

動かす

つなぐ

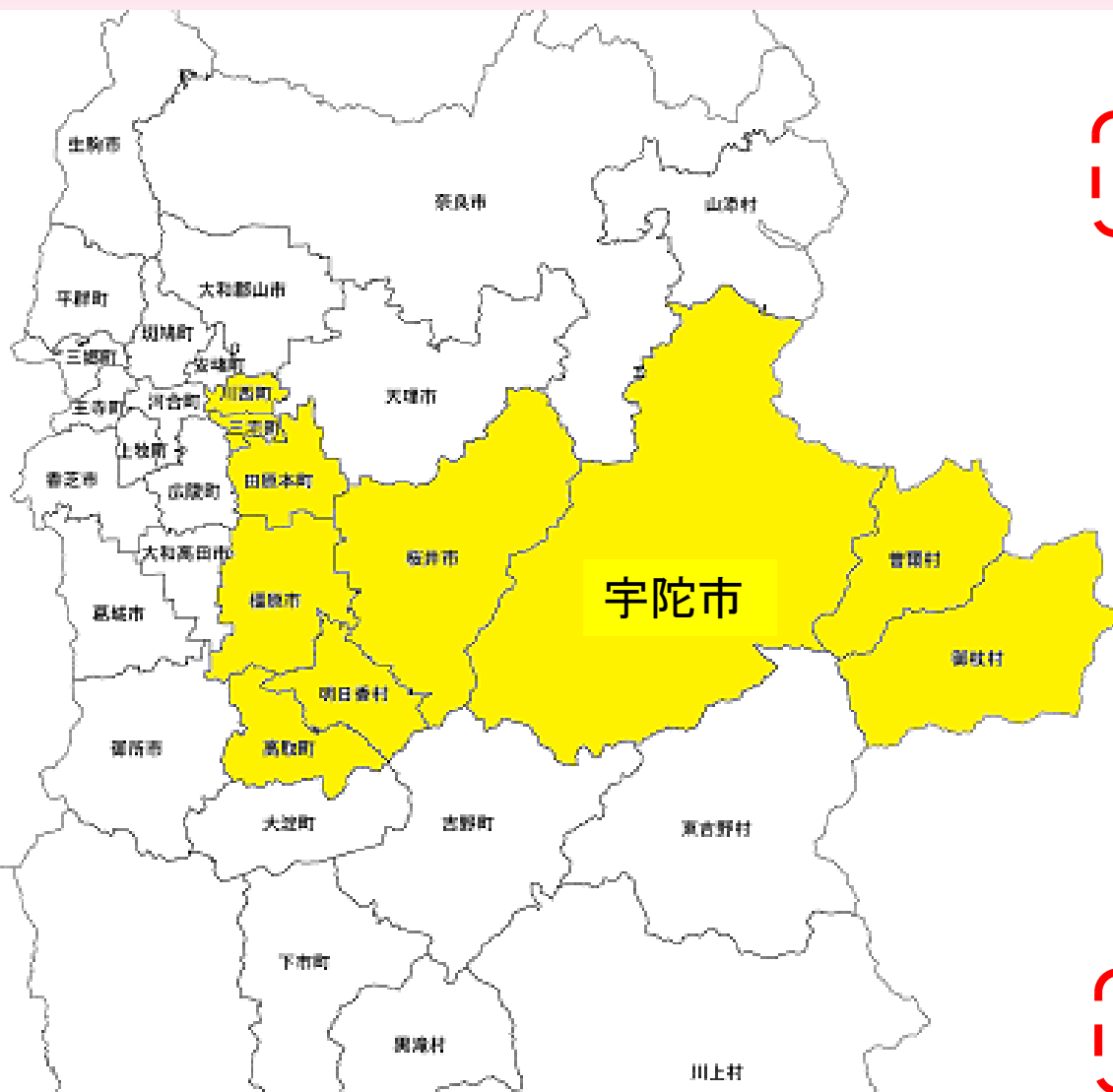
地域



「みる」

旧桜井保健所管内の
在宅医療を取り巻く状況

旧桜井保健所管内の市町村の人口格差

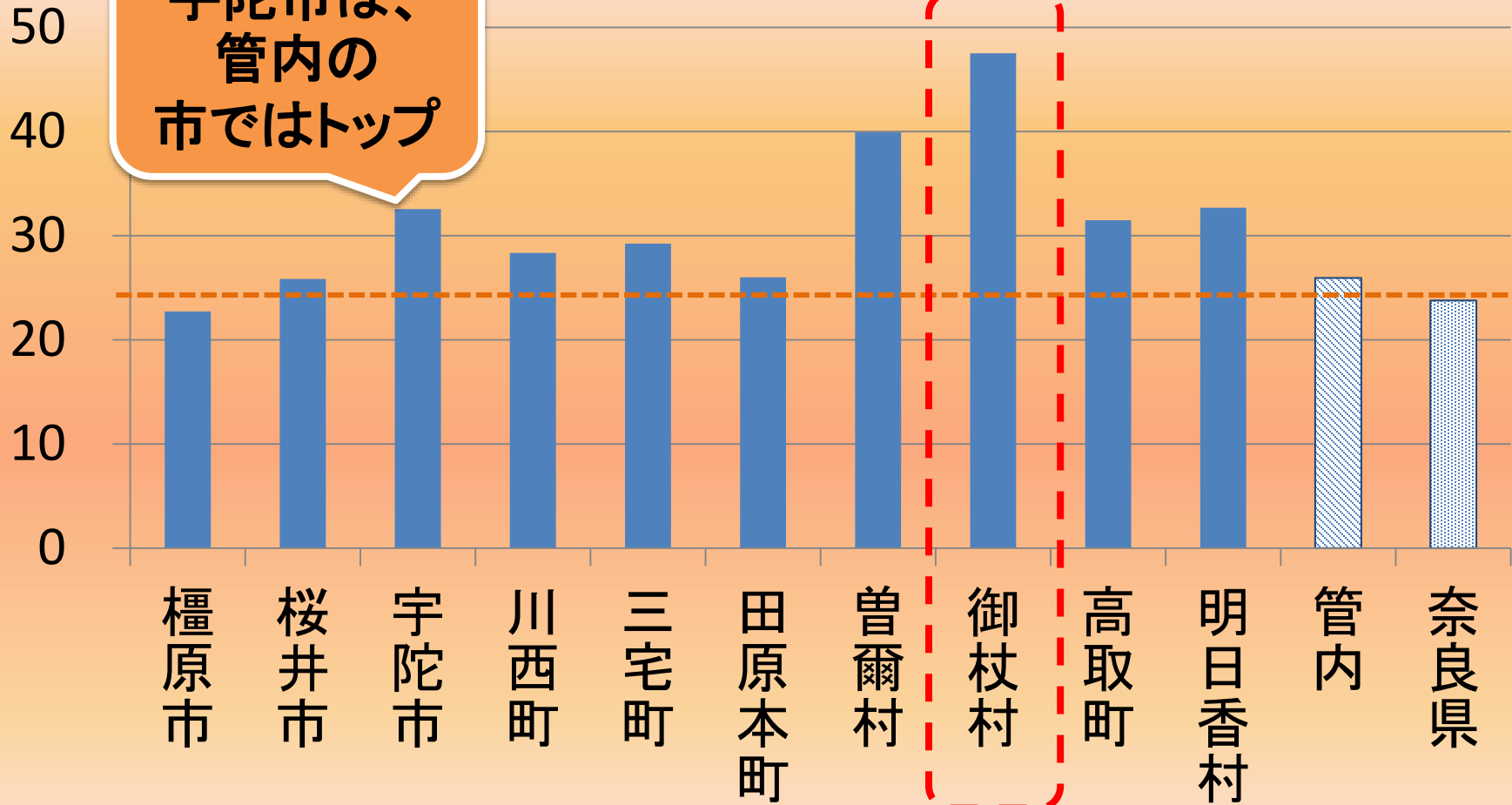


市町村名	人口 (H25推計値)
橿原市	125,492
桜井市	59,059
宇陀市	32,396
田原本町	31,977
川西町	8,609
高取町	7,363
三宅町	7,168
明日香村	5,580
御杖村	1,902
曾爾村	1,728

管内の市町村の高齢化率は高い

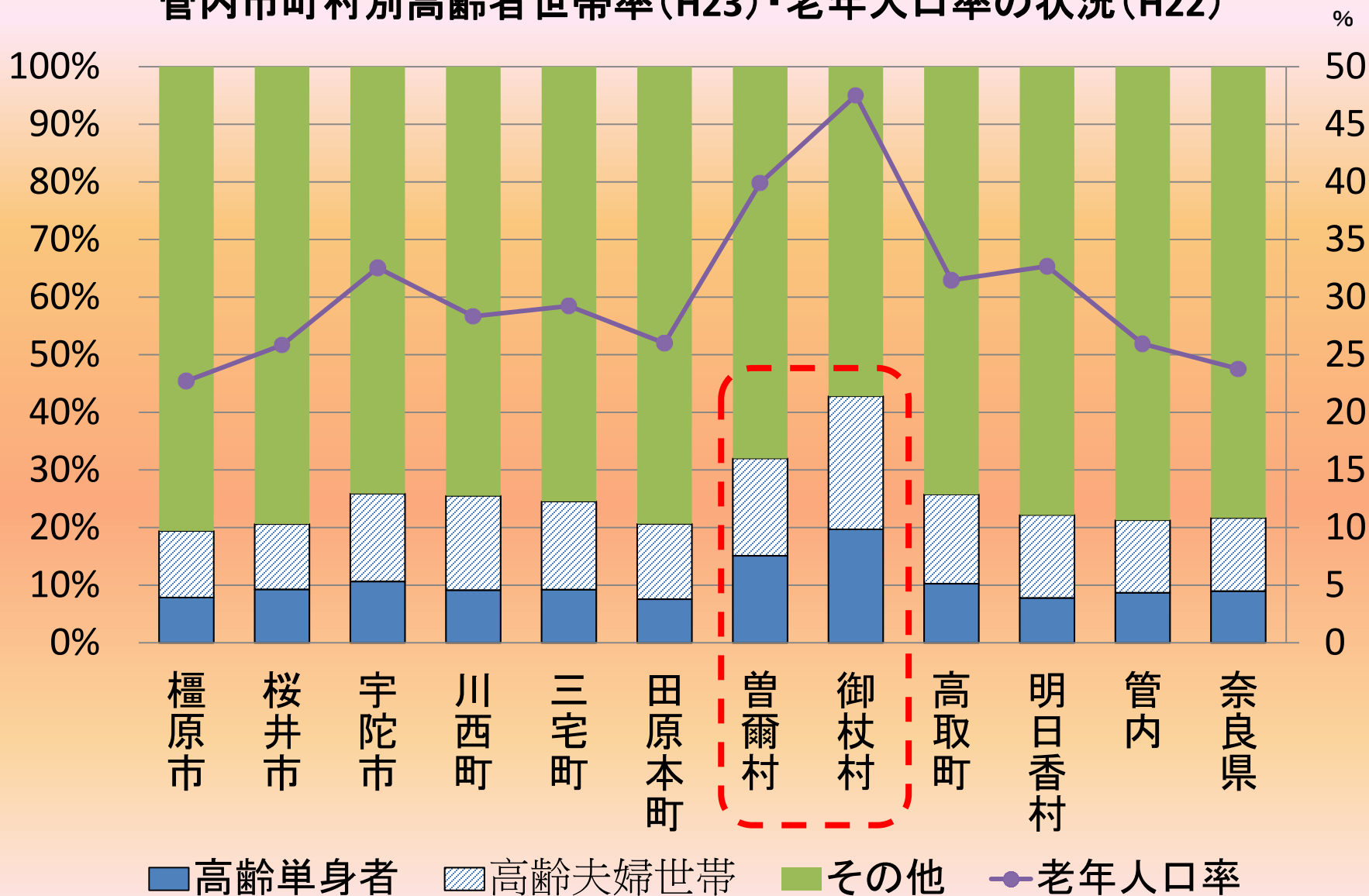
老年人口率(H24)

宇陀市は、
管内の
市ではトップ

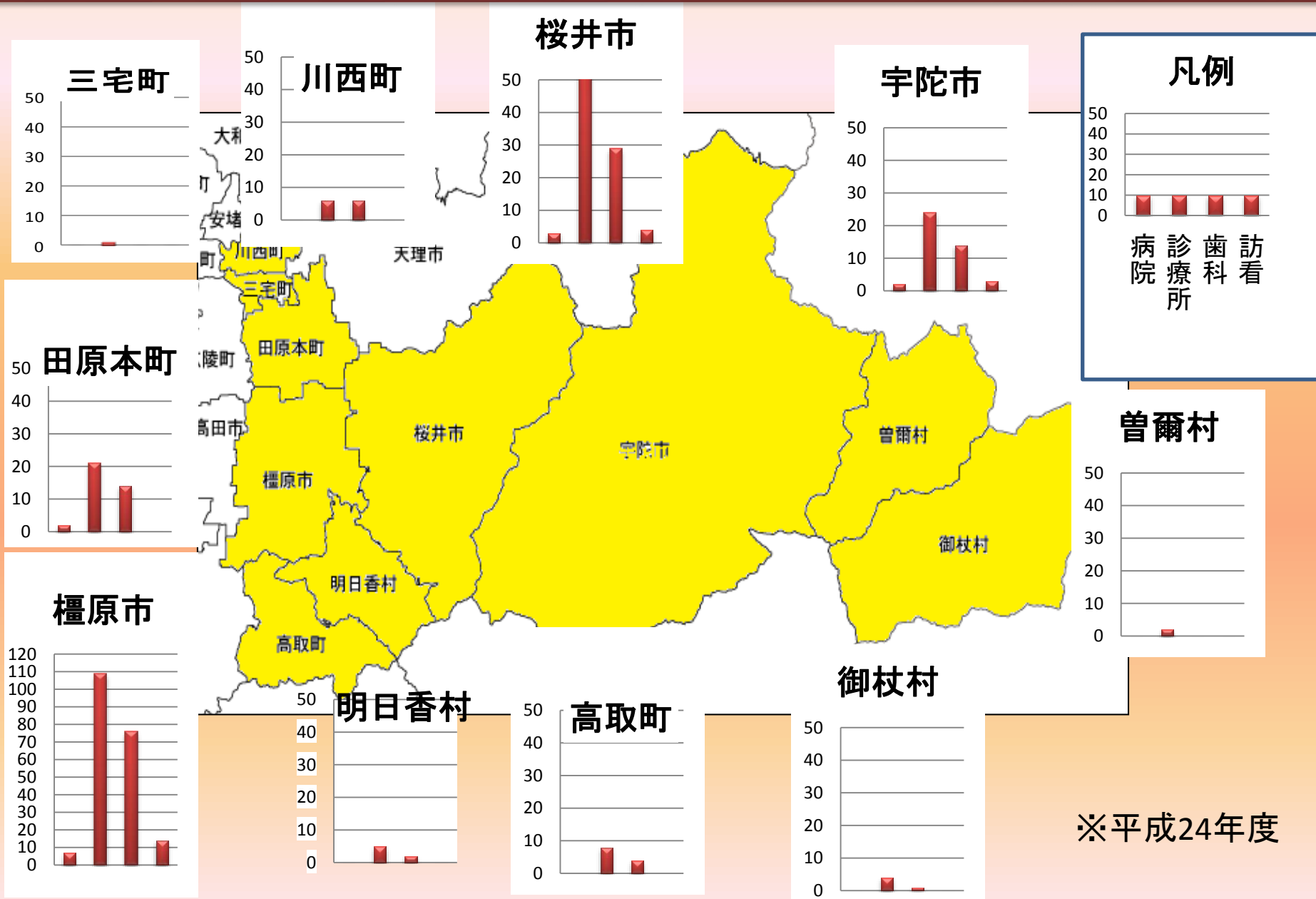


家族介護力の低下

管内市町村別高齢者世帯率(H23)・老年人口率の状況(H22)



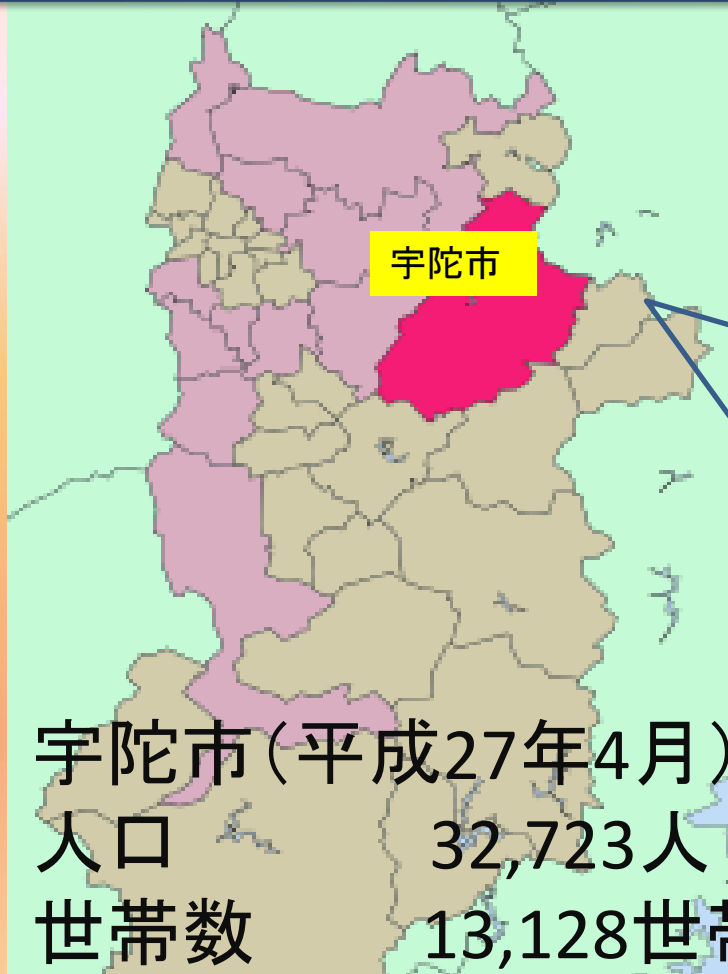
医療関係機関の市町村格差が大きい



※平成24年度

宇陀市の動向

宇陀市の概況

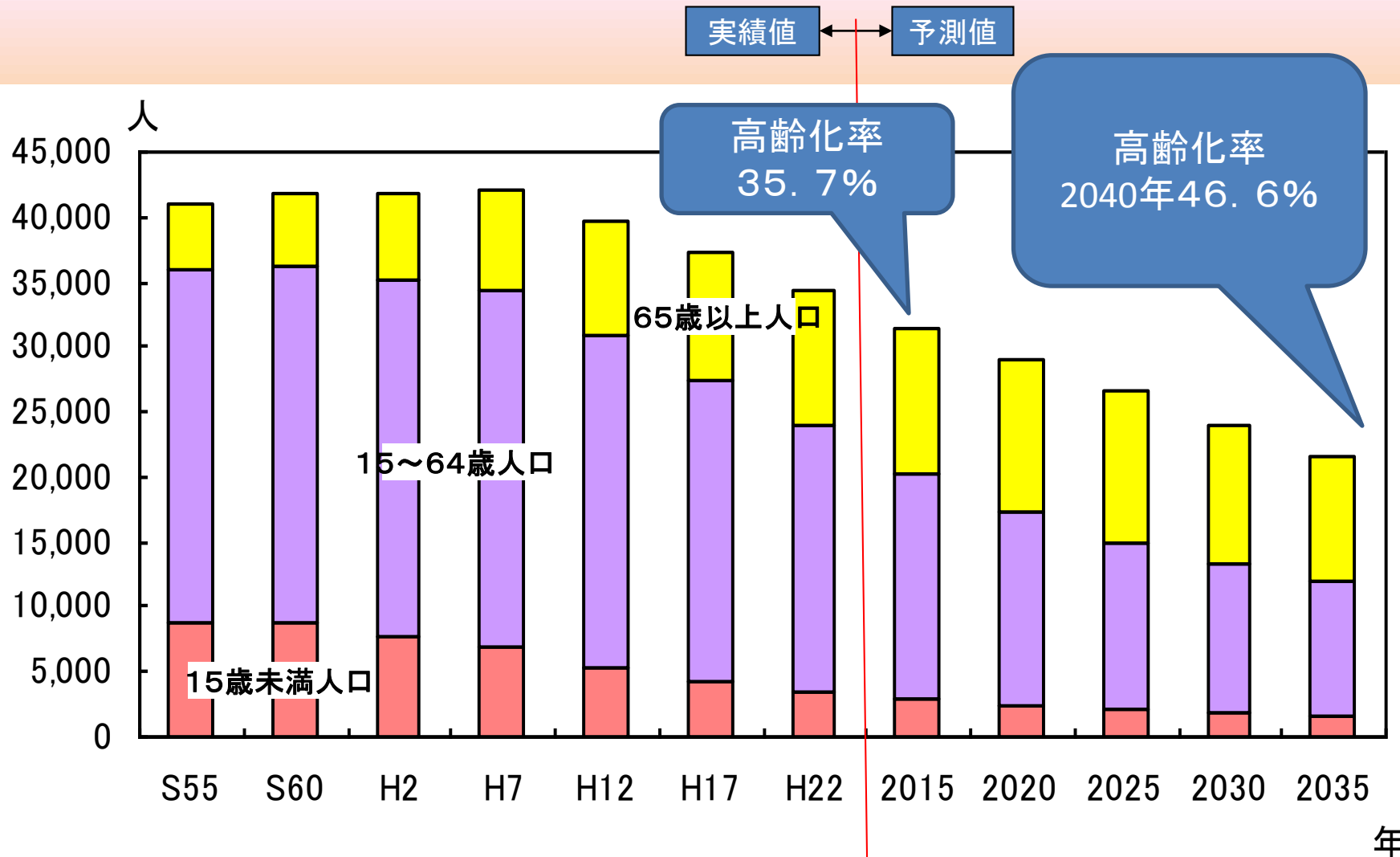


宇陀市(平成27年4月)
人口 32,723人
世帯数 13,128世帯
高齢化率 35.1%
(75歳以上率 17.6%)
5758人

面積 247.62km²
山林が全体の72%宅地4%弱
入院医療機関 2カ所
(宇陀市立病院・辻村病院)
診療所 19カ所
(内在宅療養支援診療所 1)
歯科診療所 14カ所
(内在宅療養支援歯科診療所 2)

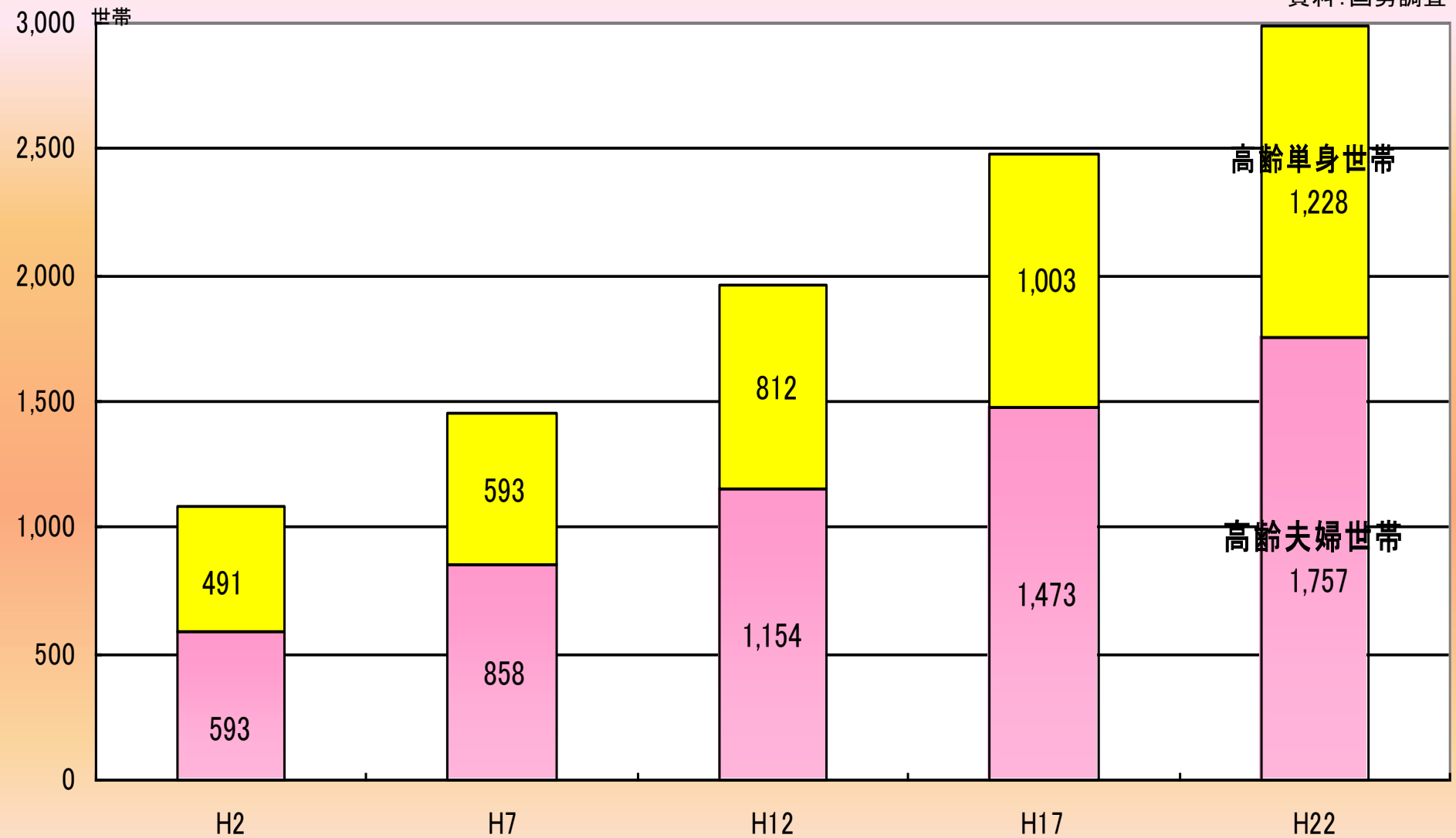
宇陀市の人口割合の推移

実績: 国勢調査/予測: 国立社会保障・人口問題研究所予測値



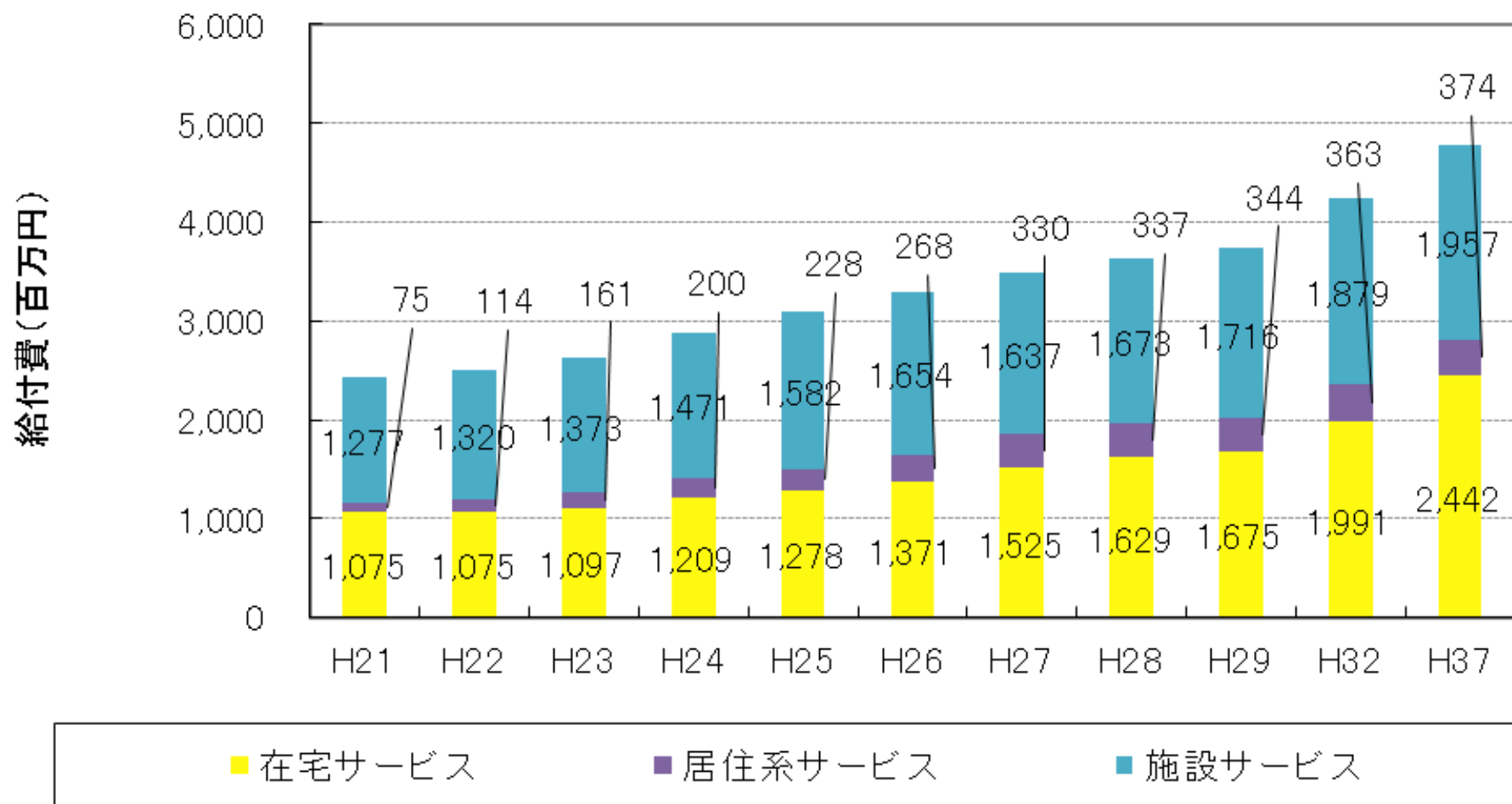
高齢者単身・夫婦世帯が増加（宇陀市）

資料：国勢調査



宇陀市介護サービス給付費の増加

サービス別給付費



「つなぐ」

広域性を生かした
保健所の支援活動

宇陀市との在宅医療連携のはじまり

宇陀市

- 健康なまち、ウエルネスシティ宇陀構想の策定。
- ウエルネスシティ宇陀構想の一環として、宇陀市立病院の機能充実が急務。
- 超高齢化を踏まえ、病院を中心とした在宅医療連携体制構築が必要。

連携

保健所

- 少子高齢化社会を迎え、在宅医療の充実を主軸とした包括ケアシステムの構築が急務。
- ケアシステムは、生活圈や、救急対応等の可能な区域での取り組みが必要なため、市町村での推進体制の構築が必要。
- 桜井保健所管内の市町村は、人口・財政規模や医療機関をはじめ在宅医療関係機関数などの格差が激しく、1市町村だけで、ケアシステムの充実を図るのは困難。
- 保健所の事業や広域性を生かした取り組みで、市町村の健康増進から包括ケアシステム構築までを支援。

保健所の広域性を生かして 宇陀市が進める地域医療連携体制の構築を支援

宇陀市と共に県及び国の在宅医療に関する
施策の状況について県庁に出向き情報収集

宇陀市の包括ケア・在宅医療等に関する
現状分析

宇陀市健康福祉部長・健康増進課長等と
保健所との連携協力について協議

宇陀市医療連携に関する検討会へ参画

桜井保健所地域在宅医療・包括ケア連携
モデル事業を開始

支援体制の輪を拡大！発展させる！

桜井保健所地域在宅医療・包括ケア

連携モデル事業開始

県の健康長寿まちづくりのモデルプロジェクトに！

宇陀市との連携事業が県の健康長寿まちづくり検討会議で取り上げられる

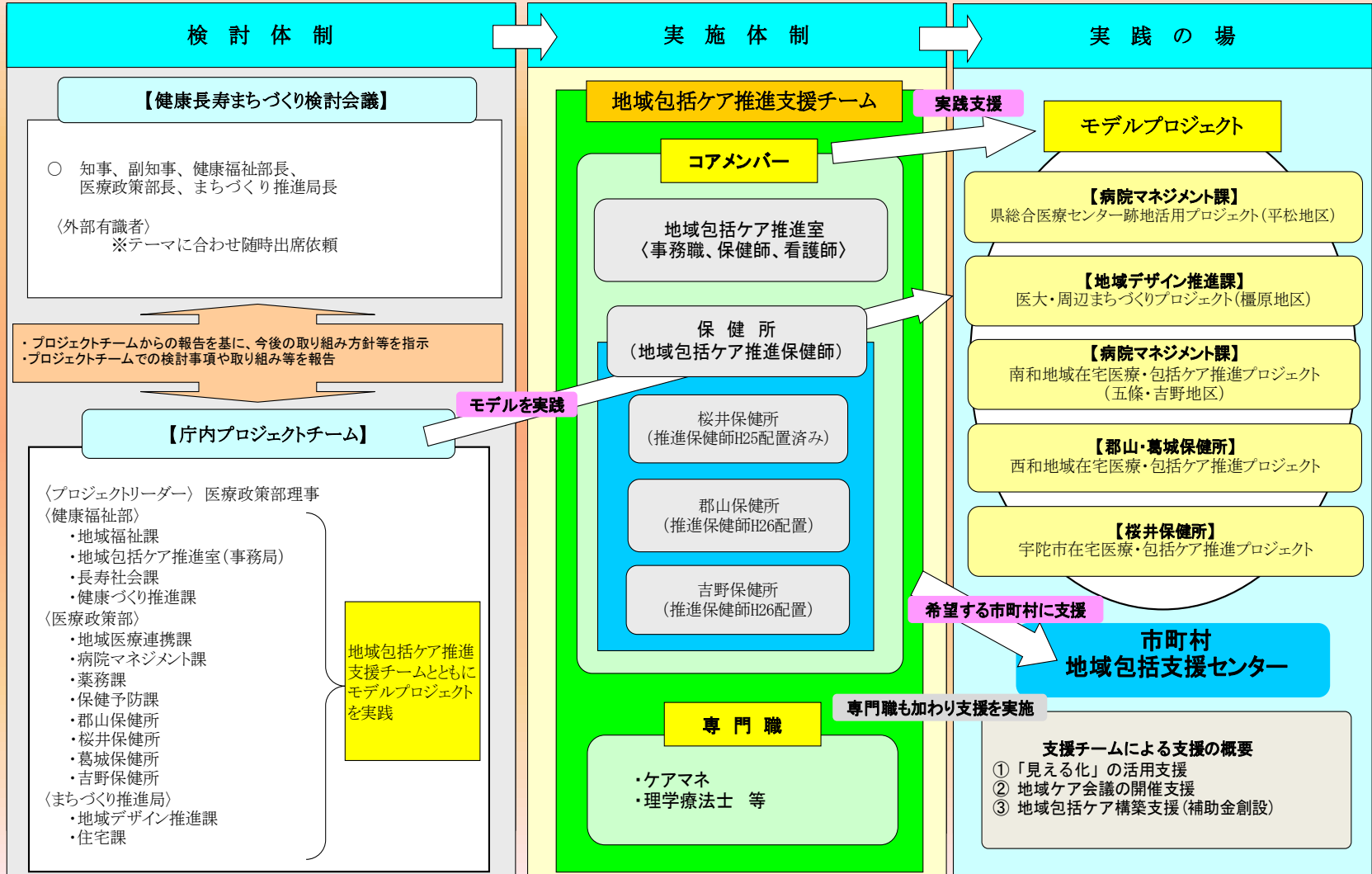
病院を核とした健康なまちづくり

プロジェクトへ！

県庁関係課と共に宇陀市健康福祉部長、健康増進課等関係各課長および病院関係課長等と総合的な健康なまちづくりの検討を開始。

奈良県地域包括ケア推進室設置とモデル事業化

- ① 地域包括ケアシステムを推進するため、「健康長寿まちづくり検討会議」及び同プロジェクトチームで課題や取り組みを部局横断的に検討
- ② 地域包括ケア推進室を設置し、地域包括ケアシステムを推進するための庁内連絡体制を強化
- ③ 事務職、保健師・看護師、主任ケアマネ、理学療法士等の専門職から成る「地域包括ケア推進支援チーム」を新たに設置し、市町村、地域包括支援センターに対して、アウトリーチによる集中的支援を実施
- ④ モデルプロジェクトの実践を通じて地域包括ケアシステムを推進



「動かす」

個別的な
つながり

仲間・
チームづくり

システムづくり

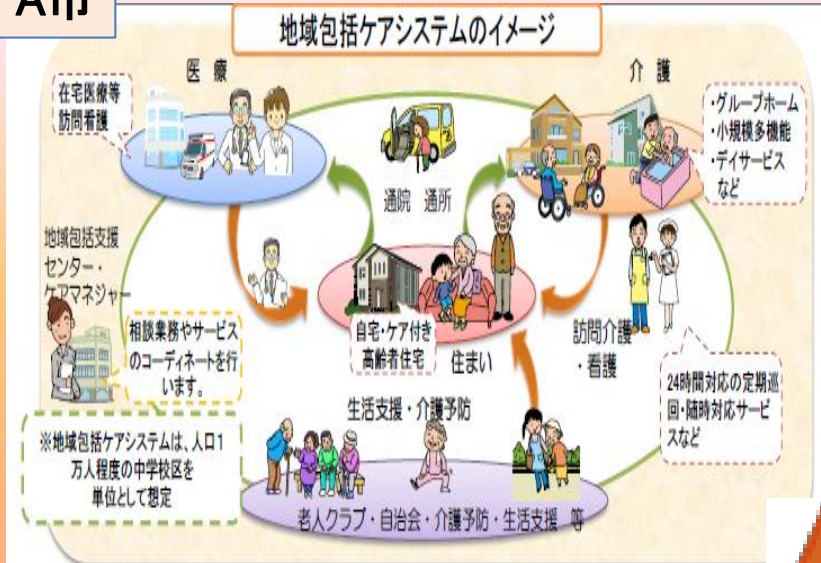
保健所の強み

保健所は、これまで、難病や小児慢性特定疾患等、医療依存度の高いケースを中心に医療連携体制の構築を進めてきた。

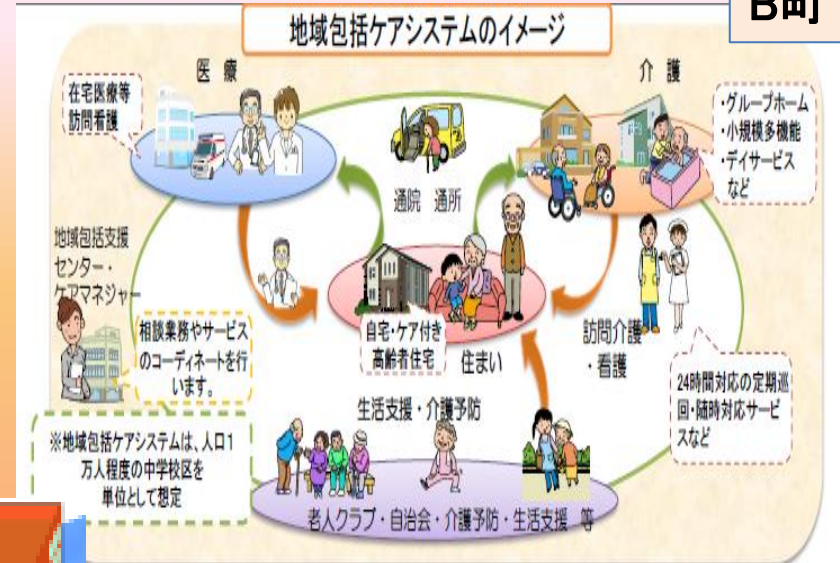
病態別の会議や研修会、訪問活動等により、地区医師会、歯科医師会、病院、訪問、ケアマネ等との連携強化を図ると共に在宅医療関係機関を増やす取り組みを行ってきた強みがある。

< 多職種連携と保健所の広域的な取り組み >

A市



B町



保健所

(新設) 地域在宅医療・包括ケア連携会議

方向性の確認
市町村格差の是正

資質向上
顔の見える関係づくり

支援体制の輪を拡大！発展させる！

在宅医療関係者の生の声を個別訪問し集約！！
(医師・歯科医師・看護師・薬剤師・ケアマネ・行政等)

桜井保健所地域在宅医療・包括ケア連携ワーキング会議
“地域のコアメンバーによる戦略会議”

現状調査
(病院・診療所・歯科診療所・訪問看護・ケアマネ・薬局 他)

桜井保健所地域在宅医療・包括ケア連携会議
“顔の見える連携体制の構築”

保健所の主な取り組み

(1) 保健所管内の多職種に向けた広域的な取り組み

- ①ワーキング会議の開催（4回）
- ②地域在宅医療・包括ケア連携会議の開催（1回）
- ③歯科口腔保健情報交換会の開催
- ④県ホームページでの情報提供

(2) 管内市町村等関係機関への支援

- ①管内市町村、病院等に対し、地域包括ケアシステム構築に向けての体制整備の必要性を説明、情報交換を実施。
- ②県モデル市（宇陀市）との体制整備等に向けた情報提供や協議への参加
- ③地域ケア会議等への企画・運営等への支援
- ④地区医師会等関係機関調整と情報交換会等の企画・実施⁶

地域在宅医療・包括ケア連携ワーキング会議

開催回数

年3～4回実施

メンバー

病院医師、看護師、地域医療連携室
在宅医、歯科医、薬局薬剤師、訪問看護師、介護支援専門
員、行政 等 21名

検討内容

- ・地域包括ケアシステム構築に向けての取り組みの報告、
情報交換
- ・管内の課題整理、解決策の検討
- ・多職種による地域在宅医療・包括ケア連携会議のテーマと
すすめ方の検討



目指す「あるべき姿」
と「実現のための方
策」を検討し実践す
る！！

桜井保健所管内在宅医療実務者の精鋭が集結 ～地域在宅医療・包括ケア連携ワーキング会議～

病院
地域医療
連携室

介護老人
保健施設

病院医師
看護師

診療所
歯科医師

診療所
医師

訪問
看護師

薬局
薬剤師

包括支援
センター

行政

地域在宅医療・包括ケア連携に関する 現状調査の実施（平成25年12月）

対象機関

管内の病院・診療所（医科・歯科）・薬局・訪問看護ステーション、
居宅介護支援事業所・高齢者福祉施設等 634ヶ所

回収率

72.6%

調査方法

アンケート用紙と返信用封筒を郵送し回収

調査項目

- ・事業所の概要
- ・在宅医療に対するイメージ、問題点
- ・在宅医療等の実施状況、医療処置等の実績
- ・医療、介護の連携状況、連携実績、連携機関
- ・緊急時の受け入れ先
- ・在宅医療の課題、自由意見



対象施設により
若干項目変更

<結果まとめ>

- ・調査機関の80%以上が、「今後在宅医療は推進すべき」と思っている。
- ・在宅医療の実施状況について、「実施している」「今後実施する予定」を合わせると、医科診療所41.0%、歯科診療所42.5%であった。
- ・また、診療所では、歯科より医科の方が高齢化がすすんでいる。
- ・在宅医療をすすめるには「緊急時の入院、入所等の病床の確保」が必要と、全体の87.7%が感じている。
- ・また、「多職種との情報交換・顔あわせできる場」が必要と、全体の76.1%が感じている。
- ・ケアマネジャーは医師に対する敷居が高いと感じている。



医療と介護の垣根を取り除くため、
「多職種との情報交換の場、顔あわせできる場」が必要！

平成25年度 地域在宅医療・包括ケア連携会議

目的

桜井保健所管内における在宅医療の推進にかかる地域の課題やニーズを把握し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療を提供するため、多職種協働による在宅医療の支援体制の構築及び充実強化を図ることを目的に、桜井保健所地域在宅医療・包括ケア連携会議を設置する。

実施日

平成26年3月16日(日)

内容

●対象機関

管内の病院・診療所・薬局・訪問看護ステーション
居宅介護事業所・高齢者福祉施設等 627ヶ所

●参加者数 179名

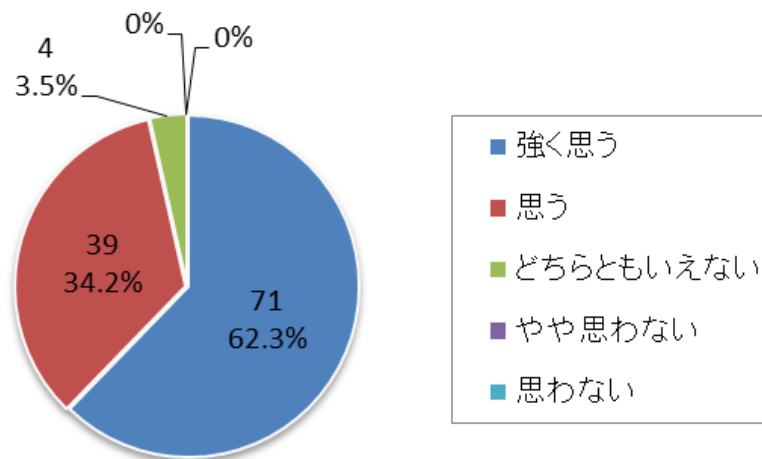
- 内 容
 - ・講演:「在宅医療を必要とする人の自宅療養の現状と課題」
 - ・グループワーク:退院時カンファレンスの事例検討
(症例はがん・脳血管疾患・難病の3事例)



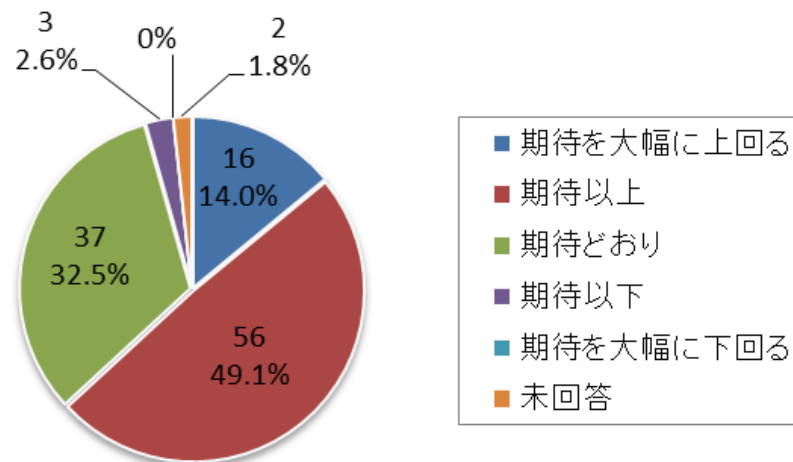
●参加者数とアンケート結果(抜粋)

職種	参加人数 (人)
開業医	13
病院等医師	4
歯科医師	8
薬剤師	20
看護師(病院・訪看等)	26
保健師	20
歯科衛生士	5
介護支援専門員	30
理学療法士・作業療法士	3
介護職	8
社会福祉士	10
精神保健福祉士	3
その他	29
計	179

④今後、多職種関係者との連絡を取り合おうと思いましたが【n=114】



⑤本日の研修会全体を通しての感想はいかがでしたか【n=114】



平成26年度 地域在宅医療・包括ケア連携会議

テーマ

病院と地域の相互理解を深め「病院と地域で患者さんの心を繋ぐ連携の在り方」を考える。

実施日

平成27年1月11日(日)

内容

●対象機関

管内の病院・診療所・薬局・訪問看護ステーション
居宅介護事業所・高齢者福祉施設等 687ヶ所

●参加者数 242名

- 内容
・基調講演:「病院と地域で患者さんの心を繋ぐ在宅移行における支援のあり方」
- ・現状報告:「地域中核病院における在宅支援への取り組み～地域包括ケア病棟を中心に～」
- ・ワールドカフェ:「患者さんの心を繋ぐ病院から在宅へのシームレスな支援とは？」



歯科口腔保健情報交換会

目的

在宅歯科医療の推進により、在宅療養者への入院から在宅まで切れ目のない口腔管理および口腔機能の維持、向上を図り、安心して療養できる環境づくりを行うことを目的に在宅歯科医療に従事している歯科医師同士の意見交換会と多職種に対して在宅歯科の推進に関する情報交換会を開催する。

実施日

平成26年11月27日(木)
13時半～16時半

内容

●対象機関

管内の歯科診療所、訪問看護ステーション、
居宅介護支援事業所、高齢者福祉施設、
市町村健康づくり・地域在宅医療・包括ケア担当課等 356カ所

●参加者数 64名

- 内容
・講演:「病院から在宅へ切れ目のない口腔管理および口腔機能の維持・向上について」～多職種連携の推進をめざして～
・グループワーク:「患者さんの思いに軸をおいた病院から在宅へのシームレスな口腔管理・口腔機能維持の実現」



内 容

●テーマ

「病院と地域で患者さんの心を繋ぐ連携について～顔が見えるから顔がわかる多職種連携を目指して」

●参加者数

208名（薬剤師16名／93箇所）

●内 容

・シンポジウム

多職種からのこれまでの取り組みと成果について

・ワールドカフェ

「在宅医療連携におけるこれまでの取り組みでなにができたのか、これから何をすべきか」



管内市町村等関係機関への支援

- ①管内市町村、病院等に対し、**構築に向けての体制整備の必要**を実施

平成27年度より、3市において在宅医療担当部署が設置された！！

県民の声を吸い上げ、施策化に繋げる体制ができた！！

との体制整備等に向けた情報

- ③地域ケア会議等への企画

市行政と地区医師会が協働し、相談窓口の設置に向けての検討が始まる！

- ④地区医師会等関係機関調整と情報交換会等の企画・実施

在宅医の増加に向けて、地区医師会での研修会が始まる！

市町村における地域包括ケア推進組織のイメージ

問題解決
(システムズ・アプローチ)

地域包括
ケアシステムの実現

住民推進会議
(多職種や地域住民代
表で、取り組み推進)

戦略

施策の策定

計画的
戦略

創発的
戦略



施策化し
事業化する

官民一体で
多職種連携

地域の
現状の吸上げ
課題整理
事業と連携を
マネージメント

★市庁内多課連携プロジェクト会議

包括ケアと医療連携拠点機能を持つ担当組織

★地域ケア会議(中学校区レベル)
(多職種や住民代表等による
地域での連携と取り組みを検討)



★個別ケースの地域ケア会議

(仮称)街かど福祉と保健の相談室(保健・福祉・医療相談等)

PDCAサイクル



宇陀市の在宅医療と介護の連携拠点づくり

医療と介護の連携拠点

**「宇陀市健康福祉部
医療介護あんしんセンター」
が開設された！！**

平成27年4月1日

宇陀市が新たに始める
在宅医療・介護の連携拠点

**宇陀市医療介護
あんしんセンター**

いつまでも 自分らしく
住み慣れた自宅や地域で暮らすために



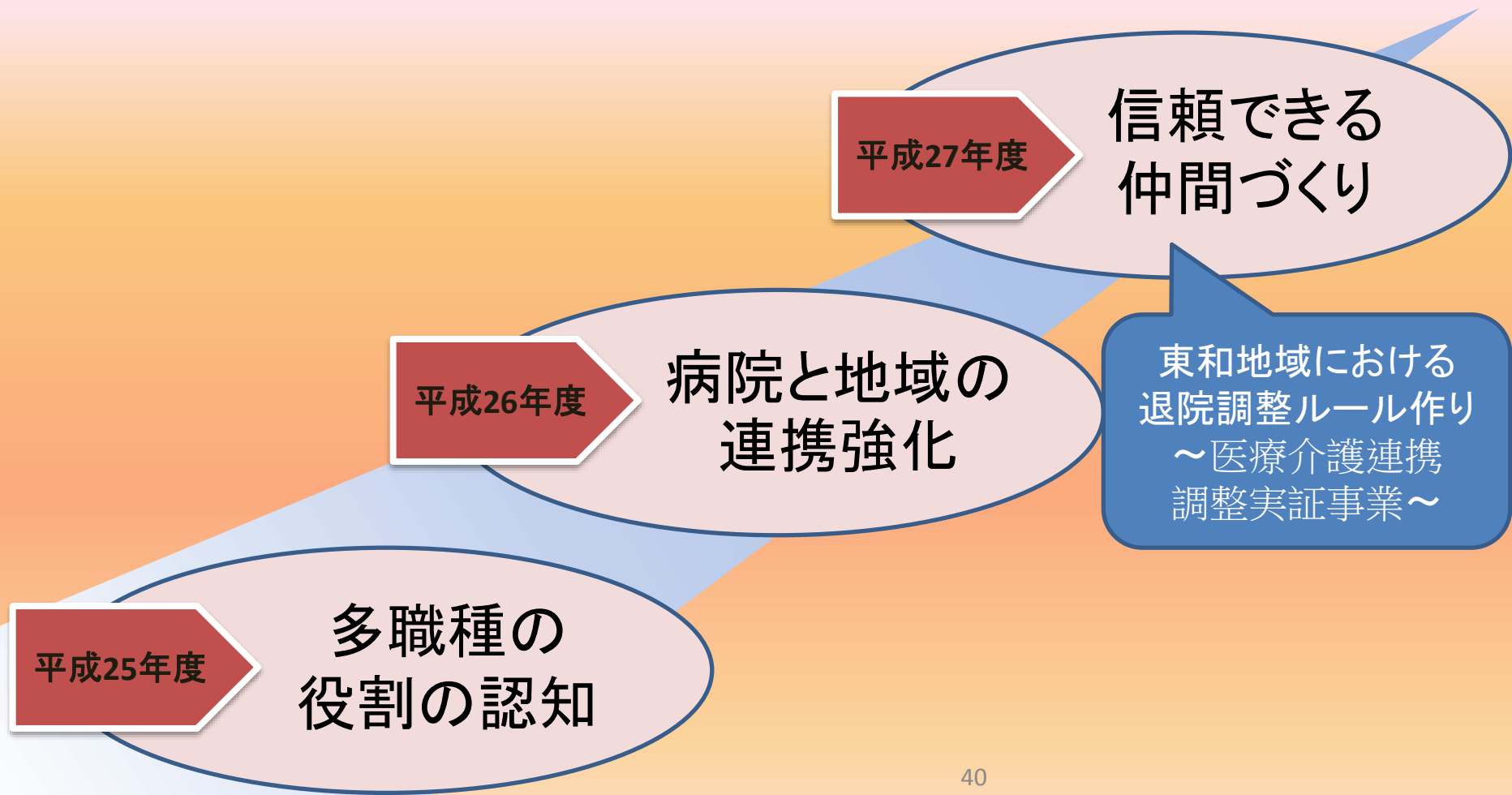
ご相談
ください！

宇陀市

旧桜井保健所から中和保健所における在宅医療連携の取り組み

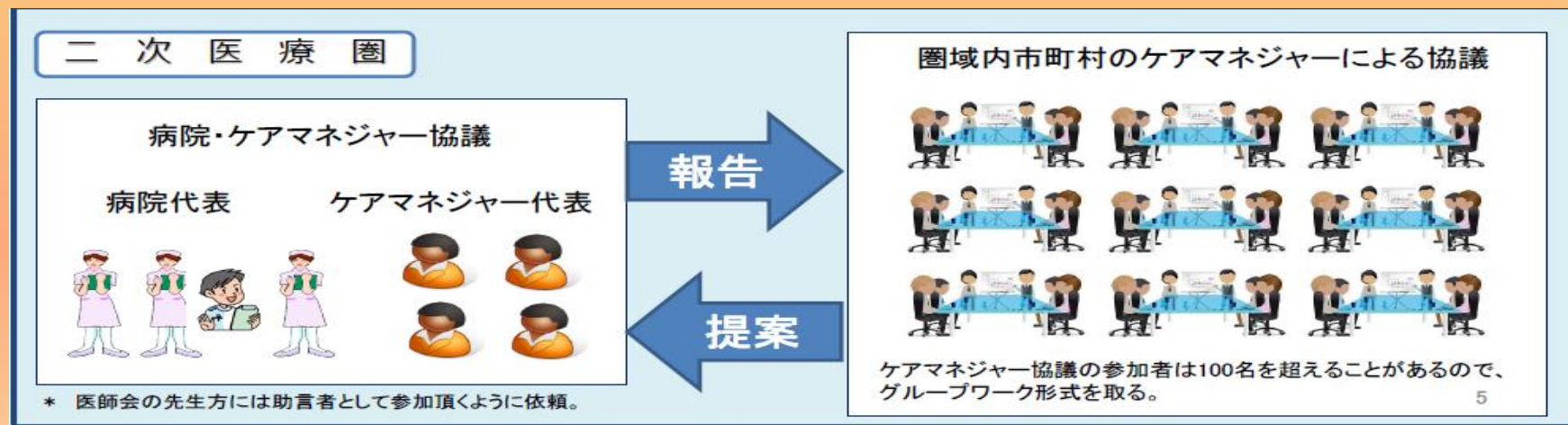
対策	H25	H26	H27	H28～
	課題共有	基盤整備	地域拡大	システム化
1) 多職種連携の課題に対する解決策の抽出 ○連携会議 ○市町村別検討会、地域ケア会議等	会議設置 (ワーキング会議等) 宇陀市	定期開催 桜井市	他市町村	全地区へ
2) 在宅医療従事者の負担軽減の支援 ○支援体制の構築のための実態調査等 ○チーム医療のための情報共有 ○病院の在宅医療支援	実態調査	病院・地区医師会 主催の研修会等	多職種の主催による 研修会の増加	在宅医療 チームの 増加
3) 効率的な医療提供のための多職種連携 ○実態調査等による社会資源の把握 ○病院の包括ケア支援体制構築 ○連携強化支援策(チームづくりとツール 開発) ○行政の連携拠点構築	実態調査	研修会情報提供 地域包括ケア病棟 ICT等ツール開発と活用 行政の拠点構築	医療介護連携 調整実証事業 地域医療支援病院	取り組み評価・見直し
4) 在宅医療に関する地域住民への普及啓発 ○講演会等 ○普及啓発媒体等の作成		講演会 (地域リーダー、 一般住民等)	講演会 (地区別懇談会等 の拡大)	
5) 在宅医療に従事する人材育成と交流 ○研修会の開催(保健所) ○関係組織団体の研修会	(役割の 認知)	(病院と地域の 連携強化) ○関係組織団体研修会開催の激増	(信頼できる 仲間づくり)	(支援システ ムの構築 → ICT等)

「顔が見える」から「顔が分かり合える」へ



【都道府県医療介護連携調整実証事業】を実施

- 目的:** 病院から在宅へシームレスな支援をより具体化するため、病院担当者とケアマネジャーを中心に退院支援のルール化を検討・運用を実施し、地域連携の充実強化を図る。
- 対象:** 東和医療圏(旧桜井保健所管内)の病院看護部長、リンクナース、地域医療連携担当者、地域包括支援センター・居宅介護事業者のケアマネジャー、市町村介護保険担当者等
- 内容:** ①戦略会議の開催(平成27年7月初): 事業趣旨、今後の進め方について説明
②退院調整状況調査(平成27年7~8月): ケアマネジャーを対象に、退院調整漏れ率を把握
③医療介護連携会議の開催 病院(8月)、ケアマネジャー(9、11月)、合同(10、12月)



【地域在宅医療・包括ケア連携ワーキング会議】(8、10、1月)

内容: 管内の在宅医療の課題に対する解決策の検討、実証事業へ助言

【地域在宅医療・包括ケア連携会議】(平成28年3月)

内容: 実証事業で策定した退院調整ルールの公表、運用に向けての意見交換

対象: 医療・介護関係者

事業説明会
(H27.7.9)



ケアマネジャー会議①
(H27.9.18)



介護保険担当者会議
(H27.12.4)



病院会議 (H27.8.31)



合同会議 (H27.10.14)

いかに連携を作り出すのか～保健所の取り組み～

個別訪問で
多職種仲間作り

連携会議で
広域的な
多職種連携

調査で
ニーズと実態を
把握

あるべき姿を
常にイメージ共有

地区医師会等
との連携強化

地域病院を核
にした
医療連携



市町村支援
(新たな組織化
・検討会等)

資料・情報の共有
(活動や資源等の情報)

常に事前説明
と事後報告

常に大切な
組織内の報・連・相

システム化の一層の推進を図るための 今後の保健所の取り組み

- 1) 地域を網羅する在宅医療チームづくりと資質向上のための環境づくり
 - ・市町村別検討会への参画
 - ・医師会等との意見交換、情報提供
- 2) 多職種連携体制の構築
 - ・多職種連携会議の開催支援(企画・情報提供・講師派遣等)
- 3) 病院を核とした地域における退院調整ルールづくり
 - ・都道府県医療介護連携調整実証事業の継続と地域拡大
 - ・連携会議の企画調整
- 4) 市町村における担当組織化、庁内プロジェクトチームの設置等の組織体制づくり及び地域支援事業(在宅医療・介護連携推進事業)確立への支援
 - ・県庁地域包括ケア推進室と協働した市町村への働きかけ
- 5) 在宅における口腔管理や栄養管理等の連携システムの構築

平成25年度以降の取り組み 地域在宅医療・包括ケア連携に関する現状調査報告書 管内研修情報

奈良県ホームページに掲載しています！

<http://www.pref.nara.jp/38213.htm>

中和保健所 地域在宅医療

検索

ご清聴ありがとうございました。

